

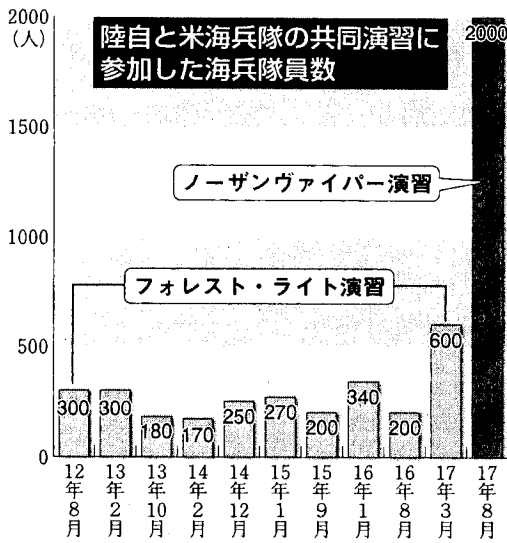
# 海兵隊2000人“参戦”

## 北海道来月に日米演習 過去最大

北海道で8月実施する米海兵隊と陸上自衛隊の日米共同演習は、国内の同種の演習では過去最多の海兵隊員約2000人が参加する大規模演習となる。2011年12月以降の米国のアジア重視戦略、15年9月の戦争法強行以降、日本全土が米軍の出撃・訓練拠点とされてきています。

### 沖繩から訓練移転

白別演習場(厚岸、浜中、別海の3町)、上富良野野習場(富良野市、上富良野、中富良野両町)で実施する日米共同演習「ノーザンヴァイパー」です。



## オスプレイも6機 戦争法具体化



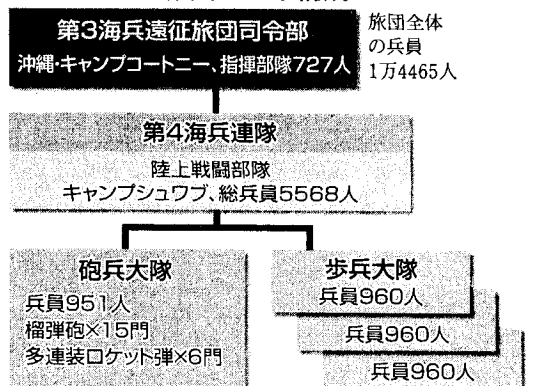
日米共同訓練に参加した米海兵隊員  
＝3月10日、群馬県・相馬原演習場

陸上幕僚監部広報室の28日の発表によると、米海兵隊は第4海兵連隊(沖繩・キャンプシュワブ)の歩兵1個大隊と第12海兵連隊(沖繩・キャンプバトラ)の歩兵1個大隊など約1300人が参加します。防衛省の同日の発表では、海兵隊からはMV22オスプレイ6機、CH53大型ヘリ

4機、UH1ヘリ4機、AH1攻撃ヘリ4機が、沖繩からの「訓練移転」として参加する計画です。今年3月に海兵隊員約600人、オスプレイ6機が参加し相馬原(群馬県)、関山(新潟県)両演習場で行われた日米共同演習「フォレスト・ライト」をはるかに上回る規模となります。

海兵隊のオスプレイは米空軍三沢基地(青森県三沢市)を補給や整備の拠点に使用する計画です。

### 第3海兵遠征旅団の基本構成



※海兵隊総司令部「事前集積計画ハンドブック」第2版(2009年1月)などから作成。実動部隊は、有事に米本土やハワイ、沖繩の部隊から配属。戦車大隊の配属はなし。一部省略した部隊があるため、陸上戦闘部隊の総数は各大隊の合計と一致しません

## 海外での本格的作戦にらむ

8月10日から28日まで、北海道内の3演習場などで実施する米海兵隊と陸上自衛隊の日米共同演習「ノーザンヴァイパー」は、かつてない2000人もの海兵隊員が参加し、道内の演習ではMV22オスプレイ6機が初参加する異例づくめの演習となりました。

北海道大演習場、上富良野演習場では11、21日にオスプレイやヘリからの部隊の投入や射撃訓練など機能別訓練と作戦を指揮する指揮官訓練が、22、26日にシナリオにもとづいて陸自と海兵隊が共同作戦を実施する総合訓練が行われます。矢日別演習場では、16、27日に、りゅう弾砲をふくむ美弾射撃訓練を実施します。

海兵隊と陸上自衛隊が1984年以来、国内で年2回程度実施してきた「フォレスト・ライト」演習は、歩兵1～2個中隊(約180人)を基本として、海兵隊の参加は170～600人でした。

今回の演習は、歩兵1個大隊(定数960人)に加え、砲兵1個大隊(定数951人)が参加。歩兵部隊に加え、火力支援をする砲兵部隊、兵員を空から投入するオスプレイと大型ヘリ、空から攻撃を支援する攻撃ヘリと、より実戦的演習となりました。

米海兵隊の日本国内での演習強化は、在沖海兵隊のインド・アジア太平洋地域での有事に即応する部隊への再編・強化が背景にあります。その中心が歩兵・砲兵各1個大隊を従えて参加する第4海兵連隊司令部(キャンプ・シュワブ、沖繩県名護市)です。第4海兵連隊司令部は、11年12月に、有事即応司令部として沖繩に発足した第3海兵遠征旅団(7000～1万5000人)の地上部隊司令部です。有事に米本土やハワイから大隊を配属して作戦を実施します。12年6月以降、常時歩兵1～2個大隊が配属されています。

(佐藤 ひとみ)